

— いつ訪れても心身ともに健康で元気になれる —

居心地のいい町 ニセコ

ニセコ町観光振興計画書



平成21年3月 策定

平成25年3月 改訂

ニセコ町

ニセコ町観光振興計画改訂にあたって

ニセコ町は、東に支笏洞爺国立公園に属する羊蹄山、北にニセコ積丹小樽海岸国定公園に属するニセコアンヌプリを擁し、中央に清流日本一の尻別川が流れる自然環境豊かな町です。農業と観光を主産業とする本町では、四季折々の美しい景観のもと、夏には登山、トレッキング、サイクリングのほかカヌーやラフティングなど、冬には世界に誇るパウダースノーによるウインタースポーツなどで多くのお客様に楽しんでいただいています。

こうした本町の特性を生かし、地域の活性化を図るため、町では、平成21年3月に観光施策に関する指針として「ニセコ町観光振興計画」を策定し、観光事業者、農業者、商工業者、町民のみなさんなどとの幅広い連携のもと、地域資源の活用や観光客受入環境の整備などに取り組んできたところです。

しかしながら、策定から現在までの間、我が国においては人口減少・少子高齢化、国内宿泊旅行減少傾向の進行、本町においても第5次ニセコ町総合計画の策定、インターナショナルスクールの開校、コミュニティFM局の開局など、社会情勢に変化が生じており、本町ではこうした変化を踏まえた新たな観光振興施策の確立が必要となっています。

このため、この度、ニセコ町観光振興計画の改訂を行い、現在の情勢に適応した観光振興施策の展開を図ることとしました。

今回の改訂では、基本戦略や実施事業を追加し、施策の充実に努めることとしたほか、各種施策の効果を評価するため、新たに観光客の満足度と消費額についての数値目標も設定しました。地域のみなさんには、今回改訂した計画の趣旨をご理解いただき、積極的なご参加とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、本計画の改訂にご尽力されましたニセコ町観光戦略会議及びニセコ町観光審議会委員のみなさんはじめ、ご協力いただきました全てのみなさんに深く感謝申し上げます、あいさついたします。

平成25年3月

ニセコ町長 片山 健也

目 次

本 編

序章	1
1. 計画の背景・目的	1
2. 計画の位置づけ	1
3. 計画の期間	1
第1章 二セコ観光の特性と課題	2
1-1. 観光を取り巻く現状の整理	2
1-2. 二セコ観光の特性	3
1-3. 二セコ観光の課題	5
第2章 二セコ町観光振興の基本的な考え方	7
2-1. 観光振興施策の基本理念	7
2-2. 二セコ町の目指す姿	7
2-3. 目標の設定と実施状況の検証	8
第3章 観光振興施策	11
3-1. 基本戦略	11
3-2. 戦略の考え方と主要施策	12
第4章 計画の推進体制とスケジュール	44
4-1. 推進体制	44
4-2. 施策の推進プログラム	45

分析資料編

第1章 観光の現状	50
1-1. 全国的な観光の動向.....	50
1-2. 北海道観光の動向.....	53
第2章 ニセコ町の観光を取り巻く現状	54
2-1. ニセコ町及び周辺観光の現況.....	54
2-2. ニセコ町の観光資源.....	63
2-3. 立地環境・交通アクセス.....	69
2-4. 観光産業が及ぼす経済波及効果.....	70

その他資料編

1. ニセコ町観光振興計画策定委員会名簿.....	74
2. 計画策定の進め方.....	75
3. ニセコ・羊蹄観光マーケティング調査の概要.....	76
4. ニセコ町観光戦略会議名簿（平成24年度）.....	79
5. ニセコ町観光審議会名簿（平成24年度）.....	80

序 章

1. 計画の背景・目的

ニセコ町は、古くから道内の温泉観光地として知られ、高度経済成長期には、モイワスキー場、アンヌプリ国際スキー場が開設されるなど、倶知安町のニセコグラン・ヒラフとともにスキーリゾートとして脚光を浴びるようになりました。その後、途中にバブル経済などの影響を受けながらも、昭和50年代後半からはペンションの急増や、スキー場、ホテル、ゴルフ場などの建設が進みました。また、平成8年ごろからはアウトドアや体験事業など地域の特色を生かした事業に取り組み、夏季の観光需要が大きく伸張しました。

近年は、ニセコ地域の雪質の良さがオーストラリア人スキーヤーを中心とした外国人にも知られるようになり、スキーを目的とした冬季の外国人観光客が増加しています。また、夏季にはアジア地域からの観光客が増加するなど、ニセコ地域は国際観光地として注目されるようになり、開発や投資が活発化しています。

その一方で、全体の観光客の入り込み数は横ばいが続いています。これまでもニセコ町や周辺地域では、観光振興のためにさまざまな方策に取り組んでいますが、地域にある豊富な観光資源を生かしきれていない、事業者間で共通認識が得られていない、国内外の観光客ニーズに対応しきれていないといった多くの課題を抱えています。

そこで町では、このような追い風や課題などさまざまな事象を考慮しながら、観光振興のみを実現するのではなく、地域全体が活性化することを目的にこの計画を策定します。

2. 計画の位置づけ

本計画は「第5次ニセコ町総合計画」の下位に位置づけられるもので、本町における観光施策に関する指針となるものです。

また、本計画に基づき別に作成されるアクションプランは、総合計画を実現するために作成される実施計画との連動を図ります。

なお、実施事業については、観光入込客数、顧客満足度、経済効果などの観光統計資料を用いて継続的に評価を行い、時代の変化に応じて計画内容を見直します。

3. 計画の期間

本計画の期間は、平成21年度から平成30年度までの10年を目途とします。

第1章 ニセコ観光の特性と課題

1-1. 観光を取り巻く現状の整理

各種の資料（分析資料編参照）、観光振興計画策定委員会やワーキングでの議論、町内観光事業所を対象に行ったヒアリング調査などから明らかになったさまざまな事象をSWOT分析(※)の手法を用いて整理しました。

※ SWOT 分析とは、戦略などを企画立案するときに用いる分析手法の一つ。SWOT は、Strength（強み）、Weakness（弱み）、Opportunity（機会）、Threat（脅威）の頭文字を取ったもので、さまざまな要素をこれらの4つに分類し、表にまとめることで問題点を明らかにします。「機会」はチャンスにつながる環境や条件、「脅威」は悪影響を及ぼす可能性がある環境や条件を示します。

強み (Strength)	弱み (Weakness)
●札幌や新千歳空港から比較的近い<u>立地環境の良さ</u> ●札幌、小樽をはじめ後志エリアなど道内主要観光地や<u>資源が周辺に点在</u> ●豊富かつ良質な観光資源に恵まれている（自然、景観、雪、温泉、農産物、体験メニュー等） ●きれいな街並みが整備されている（綺羅街道） ●「ニセコ」の<u>知名度が高い</u> ●移住者の多い地域性から<u>多様な人材を有する</u> ●さまざまな活動団体による観光振興の取り組みがみられる ●道内観光客を中心とする<u>リピーターが多い</u> ●ホテルや小規模なペンションなど<u>多様な宿泊施設が多く集積</u>	●公共交通によるアクセスや地域内<u>交通が不便</u> ●広域、地域内を問わず観光資源の<u>連携</u>やエリアとしての総合的な情報の集約・発信が<u>不十分</u> ●観光資源を生かしきれていない（各資源を地域の魅力として総合的に活用できていない。景観ポイントの造成や地場産品の活用が不十分など） ●他と比べ高い評価を受けているのは「雪」だけであり、他に<u>シンボリック要素を見出せていない</u> ●商店街やまちの賑わいに欠ける ●知名度は高いが、地域の魅力や実情が伝わっていない（<u>地域イメージが不明瞭</u>） ●地域内で観光に対する意識に<u>ばらつきがある</u> ●産業間や事業者間、地域間の<u>連携が進んでいない</u> ●観光客の<u>満足度がそれほど高くない</u> ●夏季の滞在時間が短く、観光入込客数は<u>季節変動が大きい</u> ●食事や買物を楽しめる<u>商業施設が不足</u> ●国際化対応への遅れ（外国人受入対応が未熟、表示・情報の不足、ATMの利用が不便など）
機会 (Opportunity)	脅威 (Threat)
●<u>海外観光客の増加</u> ●熟年層がスキーを見直すなど、スキー人口の広がりが期待される ●観光施設や分譲地などの開発や投資の増加（国内外の事業者による開発、ホテルの経営委譲など） ●羊蹄山麓地域における広域観光振興や人材育成などの取り組み ●<u>シニアマーケットの拡大</u> ●スローライフ、エコ、LOHAS、農などへの関心の高まり ●<u>安心・安全な「食」に対する国民ニーズの高まり</u>	●北海道全体の観光入込客数の長期的な伸び悩み、観光地間の競争激化 ●<u>国内スキー人口の長期低迷化</u> ●<u>地域資源（ニセコらしい景観など）保持への危機</u> ●各産業（観光、農業など）の<u>担い手不足</u>（事業者の高齢化や後継者不足） ●国内外の<u>経済動向</u>（原油高、国際的な金融危機など）

1-2. ニセコ観光の特性

●点在する豊富な観光資源

ニセコには世界遺産になるような壮大な自然や、道東地方のどこまでも続く畑の風景のようにナンバーワンと言えるものではありません。しかし、美しい姿を誇る羊蹄山に代表される山々、イトウが生息する尻別川、そして多様な動植物が生息する森などが身近にあり、それらと気軽にふれあうことができます。

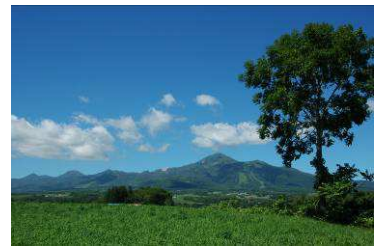
また、豊富な泉質を誇る温泉、スキーなどのさまざまなアクティビティ、おいしい水、安心安全で良質な農産物など、ニセコは豊富な観光資源に恵まれています。



●美しい山並み

羊蹄山は蝦夷富士とも呼ばれ、富士山のように美しい姿は地域のシンボルになっています。また、日本海から連なるニセコ連山や山頂のドーム形状に特色がある昆布岳も羊蹄山とともにニセコを代表する風景です。

昨今、世界的に雪不足が懸念される中、安定した降雪量と優れた雪質に恵まれたスキー場は世界的に注目を集めています。特に、標高が1,000m以下の場所で天然雪のみによるスキー場は、希少な存在になってきています。



●手軽に親しめる自然

ニセコでは車で10数分移動するだけで、豊かな自然とふれあうことができます。また、ニセコ山系には熊が生息していないので、家族連れなどでも安心してトレッキングや登山などを楽しむことができます。

豊かな自然は山だけではなく、まちの中央を流れる清流日本一の尻別川などでも親しむことができます。カヌーやラフティング、釣りなどのほか、水辺ではたくさんの動植物を見ることができます。



●農村としてのニセコ

農地の開発によって切り開かれたニセコの歴史は、農業の歩みとともに作られてきました。この歩みの中で培われた農地景観は、ニセコの特徴的な風景です。この風景は北海道らしい大規模なものではなく、本州山間部に見られる狭隘なものでも

ない、山と傾斜地が織り成す牧歌的でおだやかな風景です。

また、ニセコに降る大量の雪は豊かな自然や水を育み、農地を守ります。夏季も適度な寒暖差と降雨に恵まれ、北海道有数の食料基地として品質の高い農産物（ジャガイモ、アスパラ、メロンなど）を生産しています。



●さまざまなニーズに対応できる観光施設

町内には500室を超える大型ホテルから旅館、ペンション、B&B、コテージなどさまざまなタイプの宿泊施設が営業しており、観光客は自分の好みや滞在スタイルに応じて選択することができます。

また、スキー場、道の駅、豊富なメニューが揃う体験観光などニセコを楽しめるさまざまなアクティビティが充実していることも特色の一つです。



●新しいものを受け入れてきた風土

ニセコの観光は、温泉の発見から始まりました。その後、スキーブームの到来によりニセコアンヌプリ山麓の観光開発は大きく飛躍しました。そのとき、町外から多くの人が転入し観光に携わることで、現在のニセコ観光の礎を築きました。近年も移住者は増加しており、さまざまな知恵や技術を持った人が集まっていることも特色の一つと言えます。

また、冬の観光で発展したニセコですが、早い段階から通年化観光を目指し、ペンションのオーナーなどが自らの特技を生かして「体験観光」に取り組んできました。この取り組みが功を奏し、平成11年からは夏の観光入込客数（月単位）が冬より多くなりました。最近では外国人観光客が急増しているなど、ニセコには新しいものを受け入れてきた素地があります。



1-3. ニセコ観光の課題

●地域資源の保全、環境と調和したリゾート地づくりへの配慮が不十分

美しい山並みを見せる自然環境と農地が作り出す景観は、ニセコらしい風景の代表です。ニセコを訪れる観光客の多くは、この美しい自然景観や眺望を期待しています。しかしながら、農地を管理する農家の多くは、高齢化や担い手不足などの問題を抱えており、今後もこれまでのように農地景観を保全できるとは限りません。そのため、農家以外の人たちも関わった仕組みづくりが求められています。



また近年、海外諸国を中心に「ニセコブーム」が起きており、開発行為が地域の重要な資源である自然環境や景観に悪影響を及ぼすのではないかと危惧されています。しかしその一方で、開発行為は地域の価値を高めることにもつながるため、秩序ある開発を進める必要があります。

●リゾート地としての受入れ体制が整っていない

観光は観光事業者だけが担うものではなく、さまざまな事業者や町民などを含めた地域全体がひとつになって担うものです。しかしこれまでは、観光事業者以外の人たちが、観光の現状や観光振興の重要性などを共に考える機会はありませんでした。そのため、町民には「リゾート地づくりは観光事業者が行うもの」という気運があり、地域全体で行動することを難しくしています。観光客が何度も訪れたいと思うリゾート地を実現するためには、一般的な観光資源だけではなく、地域の文化やそこに暮らす人たちの良さなどを含めた地域全体の魅力を高めることが求められています。



また、夏季の公共交通機関や地域内の移動、国際化に対応した案内や表示などの整備は十分とはいえません。関係機関などと協力しながら充実を図っていく必要があります。

●多様な連携が確保できていない

ニセコには多様な観光資源が点在し、リゾート地として高い資質に恵まれています。しかしこれらの資源は、個々に利用されているに過ぎず一体として活用されていません。そこで、町民やさまざまな事業者などが連携し、資源を組み合わせることにより、さらなる魅力向上を図る必要があります。



また、観光客を受け入れる宿泊施設などでは、食材などが大量に使用されています。しかし、これらの多くは町外から調達され、地域内で観光消費を循環させることができていません。そこで、地域内で観光消費のメリットを享受できるように、観光事業者の利便性を向上させながら地場製品の消費拡大を図る仕組みを構築する必要があります。

●ニセコの魅力が十分に伝えられていない

ニセコにはたくさんの魅力が点在していますが、多くの人に知られているニセコは、スキーリゾートとしての姿です。特に若年層の人たちは「冬のニセコ」に対するイメージを強く持っています。また、多くの外国人観光客も雪を楽しみに訪れています。しかしその一方で、アウトドア志向の人たちは、夏に楽しむことができるカヌーやラフティング、登山など活動的なイメージを持っています。また、熟年層では、古くからニセコの観光資源として知られている温泉のイメージを強く持っています。



このように、世代や地域などによってニセコに対するイメージがまちまちなものになっていることから、地域の実情と観光客の期待との間にギャップを生じさせてしまうことが懸念されます。そこで、多くの人に地域の全体像を知ってもらえるよう、観光情報を含めた地域の情報を総合的に集約し、発信できる仕組みづくりが求められています。

●観光客の満足度は高くない

これまでに行われた個人を対象としたアンケートなどの調査結果によると、ニセコに対する満足度は必ずしも高くはありません。今後の旅行形態は、個人や小グループ旅行が主流になると予想されていますので、個人の満足度を高めていかなければ、旅行先として選ばれなくなっていくと思います。



そこで、満足度を下げている問題点を地域全体で共有し、優先順位を明確にしながら地域全体で解決を図っていくことが求められます。また、問題点を明らかにするためには、そのことを推し量る客観的な情報を集めなければならず、継続的に調査を行う必要があります。

第2章 ニセコ町観光振興の基本的な考え方

2-1. 観光振興施策の基本理念

ニセコ町では、地域の力を培うため観光振興施策に取り組みます。具体的な施策は、次の基本的な考え方に基づき展開します。

- ・観光客の満足度を高める
- ・町民生活を豊かにする
- ・持続可能な地域経済を確保する
- ・自然（環境）を保全する

2-2. ニセコ町の目指す姿

ニセコ町及び周辺地域には、自然、景観、食材、雪、温泉など質の高い資源が豊富にあります。また、農村社会の中で築かれてきたおだやかな地域柄や、有島武郎が行った農地解放など他にはない歴史を有しています。現在は人口の少ない小さな町ではありますが、海外を含め全国各地からさまざまな人が集まってきており、ニセコならではの地域社会を形成しています。

今後はこれらの特色を大切にしながら、地域に即した自分たちらしさ（＝ニセコらしさ）を生活や経済の中で育てていきます。そして、ニセコの生活を町民自らが楽しむことで、地域の魅力を多くの人に伝えていきます。

【目標とする姿】

—いつ訪れても心身ともに健康で元気になれる—
居心地のいい町 ニセコ

ニセコ町では、「四季を通じた美しい自然や景観、遊び」、「信頼できるおいしい食」、「あたたかく迎えてくれる人々」などを確立することで、来訪者に対して**にじみ出る感動やスローライフの充実感を得ることができる癒しの空間**を提供するリゾート地を目指します。

また、町民は、観光振興が地域の活性化と一体であることを実感しながら、さまざまな活動に参画していきます。そして、地域における人の魅力を確認することで、リゾート地としての価値を向上させるとともに、ここに住むことの魅力を高めながら地域の持続的な発展を図り、**来訪者と町民の双方が楽しめ、元気になる地域**を目指します。

2-3. 目標の設定と実施状況の検証

本計画に基づく各種施策の効果を評価するために、数値目標を設定します。

【目標】 計画終了年度（平成30年）までに

・日帰観光客数を年間130万人、宿泊数を年間70万泊に

＜考え方＞

日帰観光客数については、過去10年間の日帰観光客数の増加率（約18%）を本計画で維持することを目指し、過去最高水準である平成19年度実績111万人から2割増である年間130万人に設定

宿泊数については、今後も外国人観光客の増加が予想されることから、過去最高水準である69万5千泊（平成6年）を目指し、平成19年度宿泊数52万泊の3割増である70万泊に設定

・観光客の総合満足度について、「大変満足」と回答する割合を夏期27%、冬期35%に

＜考え方＞

平成22～23年度に実施した観光客満足度調査において、「大変満足」と回答した観光客は夏期17%、冬期25%であったことを踏まえ、それぞれ10%の向上を目指して設定

・観光客の平均消費額を夏期48,000円、冬期65,000円に

＜考え方＞

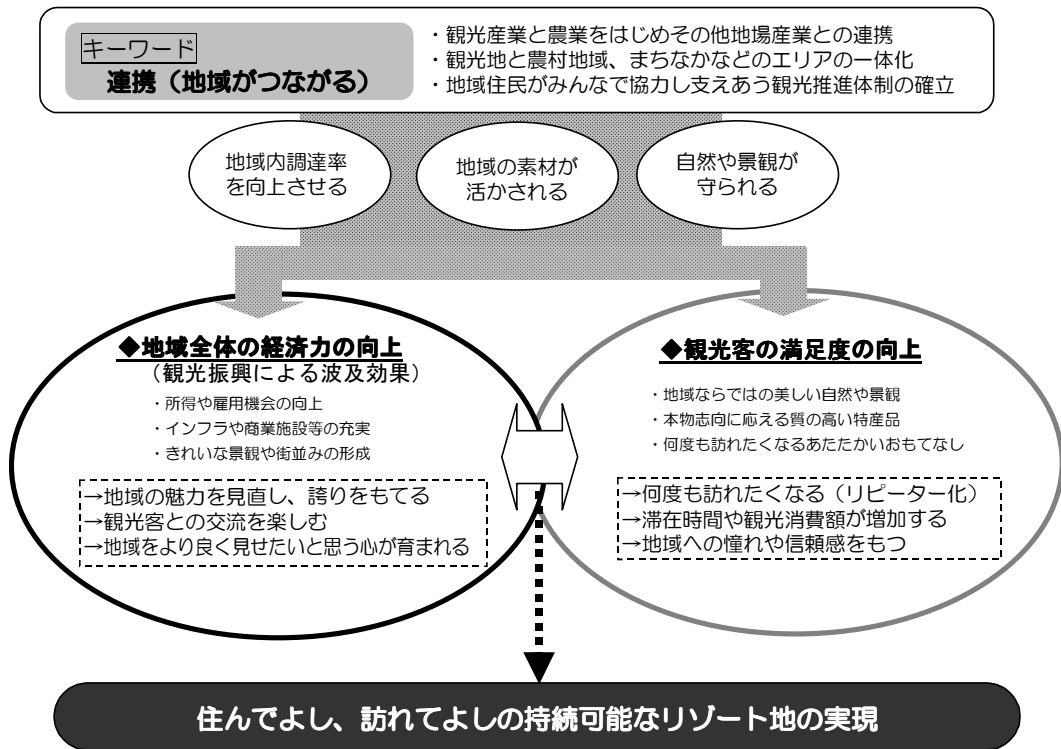
平成22～23年度に実施した観光客満足度調査において、観光客1人当たりの平均消費額が夏期43,566円、冬期58,672円であったことを踏まえ、それぞれ10%の向上を目指して設定

また、計画の実施状況を把握するためには、上記の項目だけでなく観光客の満足度や地域内の経済効果なども重要な指標となりますので、積極的に指標の収集に努めます。

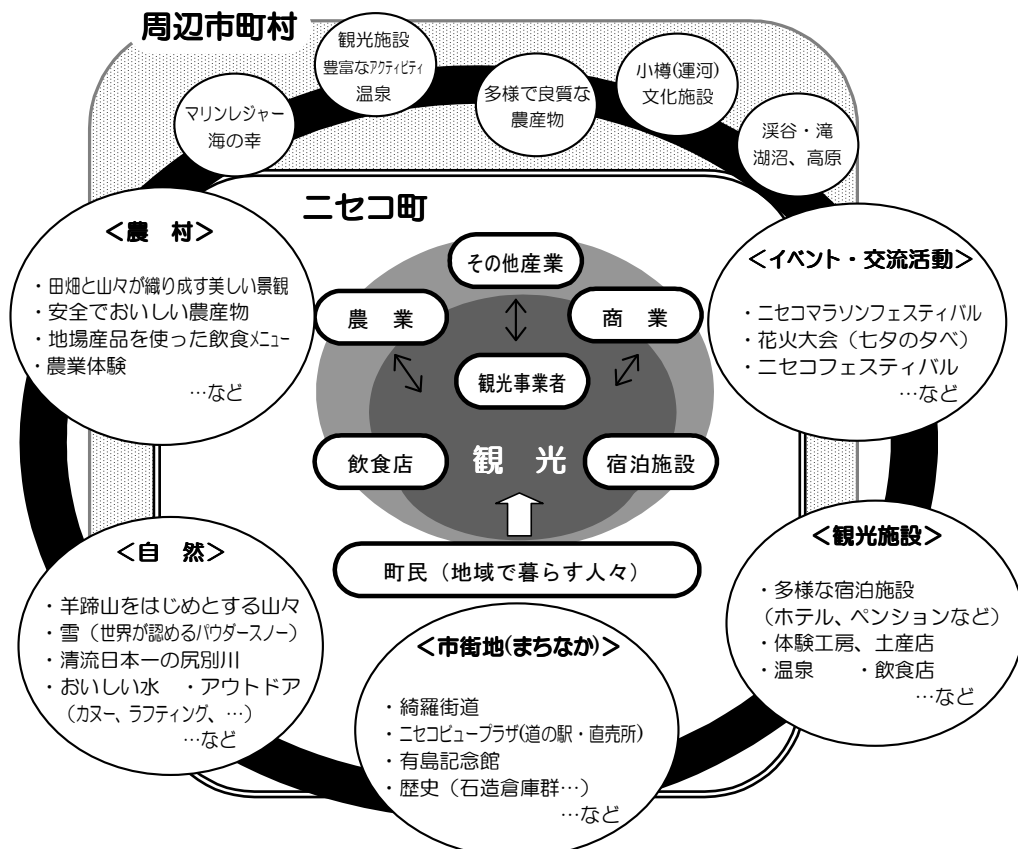
観光振興計画の検証・評価に関する指標（例）

指 標	指標を把握するための手法	備 考
観光入込客数、宿泊数	観光統計資料（実施団体：北海道）	
顧客満足度	独自のアンケート調査、観光冊子等の 人気度調査など	
リピーター率／滞在日数	独自のアンケート調査	
観光消費額	独自のアンケート調査	
地域内調達率	独自のアンケート調査	
商業施設数	商業統計（実施団体：国）	
宿泊施設の稼働率	宿泊事業者へのヒアリング調査	
住民意識	独自のアンケート調査	観光振興による住民生活 への効果、地域への愛着、 観光客との交流に対する 意識など

目標を実現するための考え方



観光振興における連携イメージ



第3章 観光振興施策

3-1. 基本戦略

ニセコを訪れる観光客の多くは、町内における地区の違いや近隣町との行政界を意識しているわけではありません。本計画ではこのような実情を考慮し、町内を地区ごとに分割して考えることはせず、町内のみならず周辺地域を含めた広域的な視点を持ち、地域の魅力を最大限に引き出せるよう考慮します。また、地域の総合的な魅力を高めるために観光事業者のみならず、他産業（農業、商業など）に関わる人や町民などが協働で観光振興に取り組み、「連携（地域がつながる）」を中心に据えた9つの基本戦略を展開します。

【基本戦略】

I. 環境との調和

～ 四季の自然と景観を保持し、調和のとれたリゾート地に ～

II. 人材育成・交流

～ 人が地域を元気に、人が観光の魅力に ～

III. 地域資源の活用

～ 地域価値を高め、地域内経済の活性化を ～

IV. プロモーション活動の強化

～ 情報管理体制の強化と戦略的活用 ～

V. 広域観光の推進

～ 広域連携による魅力の強化 ～

VI. 受入れ環境の整備

～ 誰もが来訪・滞在しやすい環境づくり ～

VII. スポーツ観光の振興

～ スポーツによる感動・交流の創出 ～

VIII. シニア層増加、総人口減少へのアプローチ

～ 少子高齢社会に向けた対応 ～

IX. ニセコに滞在する魅力の発信

～ 長期滞在から移住へ ～

3-2. 戦略の考え方と主要施策

I. 環境との調和 ～ 四季の自然と景観を保持し、調和のとれたリゾート地に ～

●戦略の考え方

四季の自然や景観は、ニセコにとって重要な地域資源です。これらを基礎にニセコの観光産業が成り立っているといえます。そのため、地域で生活する者一人ひとりがこのことを自覚し、自然環境の保全や農地環境の維持、新たな景観づくりなどに協力して取り組み、その資源価値を将来にわたって継承していきます。また、現在、町内において活発化している開発事業が環境に調和した形で進展するようルールを整備し、宿泊施設や商業施設などを充実させることで、リゾート地としての魅力を高めていきます。

これにより、観光客には、いつ訪れても美しい風景や心身ともに癒される空間、自然を身近に体感できる場などを提供できるようになり、食や宿泊をより一層楽しんでもらえることで、ニセコの魅力を高めていきます。また、環境にやさしいイメージを定着させ、地域住民、観光客ともに環境との共存を考慮しながら、生活や滞在を楽しむことができるリゾート地を目指します。

●主要施策

1. 環境保全意識の醸成、保全活動の実施

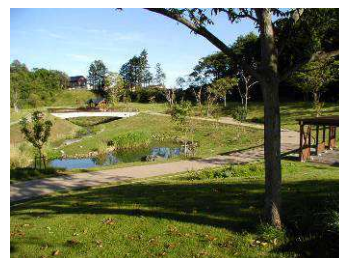
ニセコにとって重要な自然環境を保全するためには、一部の事業所や個人だけが取り組んでも効果を発揮することはできません。環境保全は、地域全体で取り組むべき重要な活動であり、ニセコを持続可能な観光地として将来へ引き次ぐために必要なことです。そこで、自然環境の恩恵を受けている者一人ひとりが自ら保全活動の重要性を認識し、地域全体の活動として取り組みます。

《実施事業》

①日常から環境保全意識を高める取り組み

- ・地域自然とふれあえる学習機会の創出

有島親水公園などの既存施設を利用し、産官学の協働によりニセコに生息する生物と身近にふれあえる場の創出を検討し、実体験の中から環境を保全する大切さを学びます。



- ・保全活動のPR、参加促進

地域内で発行している冊子を利用するほか、出版社や報道機関への情報提供などを通じて、地域内で取り組んでいる各種の環境保全の活動を広くPRします。また、来訪者に対しても地域の取り組みの趣旨を理解いただくよう努め、ゴミの持ち帰りや自然環境への配慮など、具体的な行動に対して協力を求めます。

②共同作業による美化清掃活動・環境保全活動

- ・美化清掃活動の実施

NPOや観光事業所、ボランティアなどが協働で行っている尻別川の清掃活動を、流域の町や関係団体と連携して支援します。また、道路周辺や散策路（遊歩道）など多くの人が利用する場所についても、町民や関係団体などと協力して清掃活動に取り組みます。



③エコツアーや地域環境貢献型のツアー造成

- ・環境保全をテーマにしたツアーを造成

近年、民間企業などでは地域貢献型の企業研修に注目しており、その需要は増えています。そこで、企業だけでなく、個人での参加も考慮した環境保全をテーマとした観光ツアーなどの造成を目指し、旅行事業者や観光協会、地元企業などと連携して取り組みます。



2. 環境や景観に配慮したリゾート地づくり

美しい山並みと農地が作り出す景観と、地域の経済価値を高める開発事業を両立させ、将来にわたってニセコの魅力を保全していくためには、自然環境や景観と共存した開発が行われなければなりません。そこで、景観条例や準都市計画などの関係法令などを遵守することはもちろんのこと、積極的に自然環境との共存を目指したリゾート地づくりを推進します。

また、環境や景観を単に保全するのではなく、生活に隣接する空間などを有効的に活用してより良い環境や新たな景観づくりに取り組みます。

《実施事業》

①地域環境に調和した節度ある開発事業を推進

- ・関係機関などとの協力体制の強化

ニセコアンヌプリ山麓の一部は国定公園に指定されています。また、広告

物の設置や森林の利用などは国や北海道が規制しており、地域環境と調和のとれた節度ある開発事業を進めるためには、これらの機関との密接な情報交換が必要です。また、庁内においても景観条例や今後予定されている準都市計画などとの調整が必要となることから、関係各所との連携を強化しながら節度ある開発事業を推進します。

②リサイクルや温暖化防止対策などの推進

- ・エコポイント制度の創設

マイ箸の利用など観光客が自らできるエコ活動に対してポイントを付与して、地域内で特典が受けられる仕組みを観光協会や商工会、観光事業者などと連携して検討します。

また、同様に公共交通機関の利用促進や送迎車の共同運行などを検討し、CO₂の削減を目指します。



③環境保全活動を支援する寄付等の募集

- ・「環境と共存した観光地づくり基金（仮）」の創設

環境保全活動の継続性を確保しつつ、実効性ある取り組みを担保するためには、必要な財源を確保することが必要です。

そこで、企業や個人などからの寄付金、宿泊に応じた事業者負担金などを財源とした仕組みを検討します。

④ニセコらしい景観の保全、育成の推進

- ・景観作物種子使用の奨励

ニセコらしい景観である山々と農地が作る風景を保全し向上させるため、営農活動の中で使用する緑肥作物を景観に優れた作物にするよう奨励する補助制度を検討します。

また、農道の観光利用についても、農業者と観光事業者、地域住民と連携しながらその可能性を検討します。



⑤環境に配慮したエネルギーの使用

- ・ニセコ駅前温泉「綺羅乃湯」での使用エネルギーの転換

ニセコ駅前温泉「綺羅乃湯」では、温泉の加温に重油を使用しており、環境への負荷が大きいことから、地中熱の活用など、環境に配慮したエネルギーへの転換について検討します。

Ⅱ. 人材育成・交流 ～ 人が地域を元気に、人が観光の魅力に ～

●戦略の考え方

少子高齢化が進む中、国内を旅行する人の総数は限られてきていますので、何度も訪れる観光客（リピーター）を確保することは、リゾート地にとって重要なことです。観光客に何度も訪れたいと思われるためには、自然や景観、食などの観光資源の魅力を向上させるとともに、そこで暮らす人や生活、文化といった地域全体が醸し出す魅力を高めていかなければなりません。

また、町民や事業者の中では、観光産業が地域の経済を支えている重要な産業であるという認識に差異が生じています。質の高いリゾート地を実現するためには、地域全体が観光の担い手であるという意識を共有することが重要です。そこで、町民が地元を知ることができるよう積極的な情報提供に取り組むとともに、観光事業者と連携しておもてなしの心や接遇のノウハウを伝えていきます。

また、町民が持つ知恵や技術を活かして地域の魅力を高める仕組みを検討するとともに、地域の魅力を伝える人材や観光をプロデュースする担い手の育成に取り組みます。さらに、観光客が綺羅街道などを利用する機会を増やすことで、日常の中で町民と観光客が交流する場面を増やし、双方が良い刺激を交換できるよう図っていきます。

●主要施策

1. 観光や地元を学ぶ機会の創出

観光客に選ばれるリゾート地になるためには、観光資源の充実を図るとともに、そこに住む人や生活など地域全体の良さが伝わる必要があります。

そこで、おもてなしの心や技術、地元の情報などを町民レベルで共有できるよう、これらを学ぶ機会を設けることで個々のレベル向上を図り、地域全体でニセコの良さを伝えていきます。

《実施事業》

①地域内に向けた観光情報の発信

・観光情報誌の創刊

町民や事業所を対象にした情報誌を年2回程度作成し、店舗やイベント情報、名所などの情報を紹介します。また、この他にも町の広報誌などを用いて、地域内のイベント情報など旬の情報を積極的に発信します。

②観光事業所などと連携した実践的な学ぶ機会の創出

・接遇技術研修会の開催

希望する町民などを対象に、観光事業者などと連携して接遇技術などを学

ぶ研修会を開催します。ここでは、座学だけではなく、実際の応対を観光事業者などの「プロ」から学ぶことで、より実践的な接客技術を身につけることを目指します。



③さまざまな教育機会を活用した地元を知る（考える）機会の創出

- ・関係各所との連携による学ぶ機会の創出

学校（総合学習など）と連携し、地域の成り立ちや地場産業について町民講師から学ぶ機会を設け、地域の良さを知るとともに、観光と生活との関わりについても学びます。また、町内で開催される社会教育の場においても同様に連携を図り、町民の地元に対する知識を深め、町民の誰もがニセコの案内人になれることを目指します。



④英会話を学ぶ機会の創出

- ・英会話教室の開催

店先や街中で交わされる外国人との会話に対応できるよう、商業者や町民などを対象とした実践的な英会話教室の開催を検討します。講師は、ニセコに在住している外国人や観光事業者などに協力を依頼します。



2. さまざまな知恵、技術を持つ人材の育成と活用

地域内にはさまざまな技術や思いを持った人たちがいます。これらの人たちの能力が観光や交流の現場で生かされるよう、人材活用の仕組みを検討します。なお、検討に際しては協力者が継続して活躍できることを考慮し、無償のボランティアだけではなく有償制度についても検討します。

また、人材育成は地域の責務ですので、今後もさまざまな機会を捉えながら持続性のある人材育成に取り組めます。

《実施事業》

①特技を生かせる仕組みの構築

- ・人材バンクの整備

さまざまな特技を持つ町民や、地域に協力したいと考える町民が、無理なく観光事業と連携できるような仕組みを検討します。なお、検討の際には、仕組みが持続できることに配慮する



とともに、既存の取り組みとの連携を図ります。

②認定ガイドの活用と新たな認定制度の検討

- ・認定ガイドによる町内案内の実施

羊蹄山麓地域観光ガイドの資格を持つ認定ガイドを登録して活用する仕組みを検討し、観光客や事業所の要望などに応じてガイドを斡旋します。町民ガイドには、データの観光案内だけでなく、日々の生活の中で実感するニセコの良さを自分の視点で伝えてもらいます。



③地域リーダーやプロデューサーの育成

- ・各種研修への参加支援

地域で活躍している（今後活躍が期待される）人を対象に、各種研修事業へ参加する費用の一部を補助し、自己研さん活動を支援します。また、先進地で活躍しているキーパーソンの招へいなどに必要な費用の一部についても支援し、幅広く人材育成に取り組みます。

3. 地域の力となる交流の場の創出

日々の生活の中で自らの地域のことを振り返る機会は意外と少ないものです。他の地域の人たちと交流することは、日々の生活の中では得ることができない発見があり、自らの地域のことを考えるきっかけとなります。ニセコには毎年多くの観光客が訪れており、こちらから出かけなくても多くの人と交流することができる環境が身近にあります。また、観光客も地域生活や文化にふれたいと考える人が増えており、町民と交流する機会は確実に増えてきています。

そこで、町民と観光客とが交流できる機会を積極的に設け、観光客の要望に応えながら同時に地域の活力を育んでいきます。

《実施事業》

①まちなかイベントの開催

- ・ニセコ駅前での「市」の開催

羊蹄山麓地域の農産物集積地であったニセコ駅の歴史的背景を生かしながら、「市」をテーマとしたイベントの開催を商工会などと連携して検討します。「市」では、広く販売者や産品を集い、ニセコ駅前に往年の賑わいを復活させ、新たな地域文化を築きます。また、このイベントは観光客だけでなく、町民や周辺町村の住民も楽しめる地域イベントになるよう取り組みます。



②地域内イベントの支援、連携の強化

・各種イベントの支援

七夕の夕べやニセコマラソンフェスティバルなどのような地域イベントを支援し、イベントの充実を図ります。また、観光協会や商工会、各事業所などと連携して、イベント効果を地域全体で享受できるよう地域資源を生かした新たなイベントや観光メニューを検討します。



また、個々の事業者などが実施する個別のイベントとの連携を強化し、さまざまな主体が行う地域内活動の活性化を図ります

・芸術・文化イベントの振興

町内で行われている芸術活動に係るイベントや、町内外の音楽家によるコンサートなどの芸術・文化イベントを振興することにより、他地域との文化的交流を図りながら地域の活力を育みます。

③ニセコの文化を生かした交流の場の創出

・食と有島文化にふれる交流事業の開催

ニセコの食（食材、料理）と、これを育むニセコの大地の物語（文化）を一度に伝えることができる交流事業の開催を検討します。来訪者には、食のほかに景色やまちの歴史などを楽しんでももらいます。また、ボランティアガイドやニセコ高校生などを含む町民が、自らの技能を研さんでできる実践の場としても活用します。



④リゾート観光エリアと市街地商店街との連携

・リゾート地と市街地を結ぶ構想の策定

ニセコ山系を主要なゾーンとするリゾート観光エリアとニセコ町の市街地商店街とはつながりが少なく、互いの潜在力を活かしていないのが実態です。この両地域を密接に結びつけるための方策を検討、実施します。

4. 観光客を温かい心で迎える意識の向上

観光客が旅行先で受けた温かいおもてなしは、その旅行先への愛着や満足度の向上につながることから、観光客を迎える町民のおもてなし意識の向上を図ります。

《実施事業》

①おもてなし意識の向上を図る運動の実施

- ・「ニセコ d e おもてなし運動」の実施

観光客を町民が温かく迎える気持ちの表れとして、「観光客が困っていたら声をかける。」、「記念撮影のお手伝いをする。」などの行動例を示した「ニセコ d e おもてなし運動」を実施し、町民のおもてなし意識の向上を図ります。

Ⅲ. 地域資源の活用 ～ 地域の価値を高め、地域内経済の活性化を ～

●戦略の考え方

ニセコ町内をはじめ、ニセコに隣接した地域には、優れた自然環境や食材などが数多く点在しています。しかし、それらの資源は区分ごとに利用されているに過ぎず、有機的な活用が不十分です。そこで、あらためて地域の観光資源を見直し、詳しく整理するとともにテーマ性を持たせた演出を加えることで、魅力ある観光資源を創出していきます。

また、ニセコは国内有数の農産物の産地である羊蹄山麓地域の一部であり、優れた農産物を多数生産していますが、これらを有効的に活用できていないことが大きな課題になっています。そこで、地域内での地場産品消費量を増やすとともに、「食」の良さを全面に打ち出しながら誰もが買いやすい環境整備に努め、多くの人に受け入れてもらえる地域ブランドの確立を目指します。

●主要施策

1. 観光資源の創出、見直し

ニセコは、スキーやラフティングなど行動的なアクティビティが多いリゾート地として見られることが多いのですが、優れた景観に魅了される人も多く、美しい景観はニセコにとって大切な観光資源です。

昨今、旅行者の年齢層が高まってきている中、これまで以上に景観は重要な観光資源として位置づけることができます。そこで、地元としてあらためて地域の資源を見直すとともに、さらなる魅力創造に取り組み、ニセコの魅力を広く伝えていきます。

《実施事業》

①ビューポイントの創出

・ニセコ10景の策定

ニセコにとって大切な景観を集め、それに関する地域の物語とともに策定する「ニセコ10景」に取り組み、紹介するマップやホームページなどを整備します。なお、ニセコ10景の策定にあたっては、別に町が定めるふるさと眺望点との連携を図ります。



また、これらのポイントには案内板など必要最小限の施設を整備し、地域の財産として景観を保全しながら、多くの人に楽しんでいただきます。

- ・「幻の滝」の観光資源化

町内に眠っている観光資源を再調査し、今後のリゾート地づくりに活用できるかを検討します。特に、ニセコアンベツ川の渓谷に点在する滝は重要な資源であり、観光資源化の可能性について調査します。



②温泉の魅力の再考

- ・温泉紹介冊子の作成

ニセコ山系に点在する温泉の魅力を伝えるため、他の観光資源との連携を図りながらより一層の価値の向上を図ります。その一つとして温泉に関する情報（泉質や効能など）を紹介する冊子を作成し、温泉文化の啓発やさまざまな視点からの意見なども盛り込み、温泉を広くPRします。



③既存施設の魅力強化

- ・遊具などの整備

ニセコには家族連れの観光客が多く訪れていますが、子供と一緒に遊べる空間が少ないなど需要に対応できていない現状があります。そこで、既存施設の有効活用を図り、家族連れの要望に応えられるよう安心して遊べる遊具などの設置を検討します。



2. 地場産品の地域ブランド化

ニセコでは、多品種で良質な農産物をたくさん作っており、「食」は地域にとって重要な観光資源の一つです。農業は、観光産業とともにニセコの経済を支える重要な産業であり、観光事業所における地場産品の利用は地域経済の活性化に効果的です。

また、昨今の産地偽装問題などにより、消費者の食に対する不信感が広がっており、安心安全な食に対する要望は高まっています。そこで、観光と農業が連携し、「食」を観光資源としてその価値を高めるとともに、安心安全で良質なニセコの産品を多くの観光客に知ってもらえるよう取り組みます。そして、地域内事業所での地場産品使用率を向上させるとともに、ニセコ産品の地域ブランド化を促進します。

《実施事業》

①地場産品の品質を保障するしくみづくり

- ・原産地証明制度の検討

地域の実情を考慮した中で、地場産品（農産品、加工品など）の品質が消費者に分かりやすく伝わる仕組みの確立を目指し、観光事業所や商業者、農業者などと連携しながら、その可能性を検討します。



②地場産品の使用促進

- ・「ニセコ産品使用の店」制度の検討

飲食店など料理を提供している店などで、原材料に地場産品がどれくらい使われているかがわかる仕組みを検討し、食事をする客の満足度を向上させるとともに、飲食店などでの地場産品の消費拡大を図ります。



③地場産品を活用した商品の開発

- ・地域限定グルメ（商品）の開発

ニセコの「食」を分かりやすく伝えることができる看板メニューは、観光客にとって大きな魅力となることから、宿泊・飲食事業者などと連携し、地域グルメ（商品）の開発に取り組みます。なお、開発にあたっては、まったく新しい物を作るという手法のほか、今あるものを見直して製品化を図るという手法も含めて、専門家などからの意見を取り入れながら進めます。また、すでに地域内で取り組まれている事業との連携を進めます。



3. 観光事業所における地域内消費額の増加

観光事業による地域内の経済効果を高めるためには、観光消費を域内で循環させることが重要です。しかしながら現状では、宿泊施設などの仕入れの多くは町外へ流出しており、観光消費が地域内に還元されているとはいえません。

そこで、農産物などを中心に地域内での調達量を増加させ、経済循環の活発化を促進することで、新たな需要が創出される仕組みづくりに取り組みます。

《実施事業》

①地域内調査の実施

- ・地場産品使用に関する調査

町内の各事業所において、食材などがどれくらい使われているのか、また、地場産品に対してどのような需要があるのかを的確に把握するための調査

手法の確立を図ります。また、調査により明らかになった需要に適応した方策を検討します。

②事業者同士の意見交換の場の確保

・ビジネス懇談会の開催

さまざまな業種に携わる人が一堂に会し、気軽に意見交換したり、ビジネスパートナー探しをしたりできる場を設け、新たなビジネスの掘り起こしに努めます。

③事業者と生産者との連携を支援するしくみの整備

・「農」「商」「観」連携による流通モデルの構築

生産者（農業者など）と利用者（観光事業者など）が流通の当事者として参画し、商工事業者を含めた3者による地域の実情に即した流通モデルを検討します。そして、ビジネスとして確立することを図り、地場産品を生かした魅力づくりの取り組みを強化します。



Ⅳ. プロモーション活動の強化 ～ 情報管理体制の強化と戦略的活用 ～

●戦略の考え方

「ニセコ」は、古くから観光地として全国的に知られています。しかし、その一方でニセコのイメージは、来訪者の居住地や年齢層などによってまちまちなものになっています。そこで、ニセコの姿や魅力を継続的に発信し、多くの人に等身大のニセコを知ってもらえるよう取り組みます。

また、現在提供されている観光資源の情報は、行政区域ごとに取りまとめられており、地勢を知らない観光客にとって利用しやすいものではありません。そこで、あらためて地域の観光資源を見直すとともに、その情報を詳しく整理します。また、イベントや地域の情報などは、観光事業者などと連携して的確に情報収集を行い、集約した情報を効果的に発信する仕組みを検討します。そして、多くの観光客にニセコの魅力が伝わるきめ細かい情報提供を行うとともに、市場に適合した戦略的な情報の提供や誘客宣伝活動に取り組みます。

●主要施策

1. 地域イメージの発信

観光客が抱いているニセコに対するイメージは、それぞれの顧客層によって異なります。これは、ニセコにたくさんの観光資源があるからともいえますが、結果として地域イメージをあいまいなものにしています。このことは、観光客のニセコに対する期待感と本来のニセコの魅力との間に差異を生じさせることになり、満足度を下げる要因になると考えられます。

そこで、ニセコの魅力を端的にあらわす地域イメージを確立し、PRを強化することで、多くの人に選んでもらえるリゾート地になることを目指します。

《実施事業》

①キャッチフレーズやロゴなどの作成

- ・新しいロゴやキャッチフレーズの制定

本計画により推進する「ニセコの姿」を地域内で共有するとともに、国内外の多くの人にも伝わるよう、新しいロゴやキャッチフレーズの作成に取り組みます。

②映像などのイメージコンテンツ作成

- ・ニセコの四季を伝えるイメージ映像の作成

ニセコの代表的な風景である山と畑が織りなす景観や、ビューポイント、観光名所などを映像で紹介するコンテンツを作成します。また、旅行関係事

業者や出版社がパンフレットの作成などに利用できる画像のデータベースを観光協会などと連携して整備します。



③固定客への情報発信

- ・ニセコファン倶楽部（仮）の設立

ニセコへ何度も訪れている観光客やニセコを応援してくれる人などに、よりニセコのことを好きになってもらえるよう地域情報や会員特典などを提供する「ニセコファン倶楽部（仮）」の設立を検討し、誘客事業の強化と交流事業の活性化を図ります。

2. 観光情報の収集、発信の強化

事前に得られる地域の情報は、観光客にとって旅行先を決める重要な手がかりとなります。そのため、ニセコにある多くの観光資源の魅力を知ってもらい、興味を持ってもらえるよう演出を加えた情報発信が必要です。そこで、さまざまな地域情報を収集管理する仕組みを整備し、旅行関係事業者などへの情報提供だけでなく、観光案内所で行っている観光案内においても最新の地域情報が利用できるよう検討します。

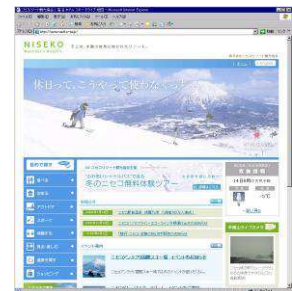
また、観光客の満足度を高めるためには、いかにして要望に応えていくかが重要です。そのため、観光案内所では、観光客の要望や嗜好を的確に把握することが求められます。そこで、観光案内所での案内対応を向上させながら、地域を総合的に楽しんでもいただける紹介機能の強化を図り、観光客の満足度向上を目指します。

《実施事業》

①観光情報を一元管理する体制づくり

- ・地域情報システムの構築

選ばれるリゾート地を目指し、多くの人にニセコの魅力を知ってもらえるよう、きめ細かい地域情報を提供する仕組みを検討します。このシステムでは、観光施設やアクティビティの情報を管理するだけでなく、地域のさまざまな情報も取り込み、町民や事業者などが参加して運営する仕組みの確立を目指します。



②観光客の要望に応えるコンシェルジュ機能の強化

- ・観光案内所の充実

観光客の要望に的確に応えた質の高い観光案内を実現するため、観光案内

員の研修を強化し、ニセコを総合的に紹介できる能力の向上を図ります。また、外国人観光客とのコミュニケーションが円滑に行われるよう外国語が使える観光案内員の採用や育成を検討します。



3. 地域情報の戦略的活用

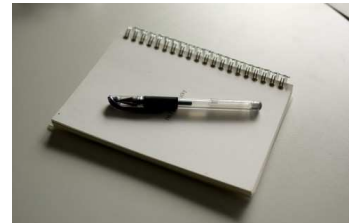
毎年、観光に関する統計情報は、さまざまな機関などが調査し公表していますが、ニセコに絞り込んだ観光客の満足度調査などは、単発的に実施されているに過ぎず、継続して情報を得ることができません。戦略的な誘客活動を進めるためには、顧客の要望など詳細な情報が必要であり、その情報を元にした的確な分析が必要です。そこで、不足する情報の収集手法と必要な情報を地域で共有する仕組みを検討し、市場に適応した戦略的な誘客活動に取り組みます。

《実施事業》

①観光需要調査の実施

- ・情報収集手法の確立

現状把握に必要な情報である観光客の要望や満足度を知るため、地元のほか主要都市などでの調査も対象にした情報収集手法を検討します。なお、情報収集は、道内外の大学やニセコファン倶楽部（仮）などとの連携も考慮します。



②地域情報の共有

- ・情報共有の仕組みづくり

地域全体でリゾート地としての質を向上させるためには、観光に関するさまざまな情報（資源、イベント、苦情、満足度など）を共有し、地域全体で問題点を改善していくことが求められます。そこで、各事業所や関係団体などが参画した体制を検討し、最新の情報を共有しながら地域全体のサービス向上に取り組みます。



③市場に応じた戦略的情報発信

- ・柔軟な情報提供機能の強化

新たに整備を検討する地域情報システムを活用し、顧客年齢層や地域、季節などさまざまな需要に応じたきめ細やかな情報を取りまとめ、ポイントを絞った効果的な誘客活動を推進します。

4. 大規模な会議などの誘致

国際的なイベントや会議、見本市などのコンベンションは、アフターコンベンションや同伴者プログラムなど高い付加価値を生むので、ニセコ町の地域資源を活用したテーマを設定して、積極的に誘致活動を行います。

《実施事業》

①コンベンション誘致に係る体制整備

- ・ユニークベニューの開発

様々な企画・発想を基に、町内の各事業者と連携してニセコ町らしいユニークベニューを開発し、コンベンション開催地としての質の向上を図ります。

(ユニークベニュー…会議や懇親会などに使用する個性的・独創的な会場。通常、一般の観光客では会場として使用できないような文化財施設等を会場とすることで、開催地としての魅力を高める効果がある。)

②コンベンションに係る情報収集

- ・インターネット等を通じた情報収集

各種学会や会議について、次回以降のニセコでの開催を働きかけるため、インターネット等を通じた情報収集を行います。

③コンベンション誘致のための情報発信

- ・コンベンションガイド冊子の作成

会議施設、宿泊施設、飲食店についての情報のほか、医療提供体制や宅配サービスなど、イベントやツアーを企画する会社が必要とする情報を一まとめにした冊子を作成し、コンベンション誘致の円滑化を図ります。

- ・チームビルディングガイド冊子の作成

参加者相互の連帯を強める「チームビルディング」について、「カヌーを使ったチームビルディング」など、ニセコで提供できる手法を冊子に取りまとめ、企業研修などの誘致を図ります。

- ・コンベンション開催団体への働きかけ

各種学会や会議の開催を検討している団体に対し、電話や電子メール等により接触し、必要に応じコンベンションガイド冊子等の資料提供を行いながら誘致の働きかけを行います。

④他市町村との連携

- ・札幌市、倶知安町等との連携

M I C Eにおける連携・協力を行うこととしている札幌市、倶知安町な

どと協働して、コンベンション等誘致に関する情報の共有化、受入基盤の整備、新たな魅力の開発などに取り組み、誘致活動の強化を図ります。

(M I C E (マイス) …企業等の会議 (Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行 (インセンティブ旅行) (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention)、展示会・見本市、イベント (Exhibition/Event) の頭文字のこと。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。)

5. 教育旅行の誘致強化と受入体制の充実

学校行事の旅行 (遠足)、集団宿泊的行事である修学旅行、遠足、移動教室、合宿、野外活動などの教育旅行は、ニセコへの来訪者数及び宿泊客数の増につながるほか、将来に向けたニセコファンの獲得にもつながることから、旅行会社等に対する誘致活動とともに受入体制の充実に取り組みます。

《実施事業》

①教育旅行についての現況把握

- ・教育旅行現況調査の実施

ニセコ町内において、どの地域からどのような学校が訪れているかについての現況を調査し、誘致活動を効果的に行うための基礎資料を整備します。

②教育旅行誘致に向けた情報発信

- ・旅行会社への情報発信

教育旅行を取り扱う旅行会社を対象に、視察旅行の受入やセールスコールを行います。

③教育旅行受入のための体制整備

- ・提供可能な学習プランの充実

大人数での受入や雨天時の受入などにおいて提供可能な学習プランを増やし、教育旅行目的地としての質の向上を図ります。

6. 映画やテレビ番組の撮影支援

ニセコを舞台とした映画やテレビ番組が制作、放映されることは、撮影スタッフの滞在による宿泊増が見込めるほか、観客・視聴者のニセコへの興味喚起を促すことから、円滑な撮影が行えるよう支援を行います。

《実施事業》

①撮影の円滑化に向けた支援

- ・情報提供及び住民参加による支援

映画やテレビ番組の撮影が円滑に行われるよう、ロケ地情報の提供や撮

影の立会い、エキストラの手配などの支援を行います。

7. 各種視察旅行に対する支援

ニセコについて記事掲載を検討している出版社やニセコに係る旅行商品造成を検討している旅行会社等が行う視察旅行に対し、ニセコの魅力が十分に伝わるよう必要となる支援を行います。

《実施事業》

①視察の円滑化に向けた支援

- ・ 情報提供や視察同行による支援

出版社や旅行会社等の視察が円滑に行われるよう、旅程についての相談に応じるほか、視察先に係る情報提供を行います。

また、必要に応じ視察に同行し、現地での協力を行います。

V. 広域観光の推進 ～ 広域連携による魅力の強化 ～

●戦略の考え方

ニセコエリアは複数の町で構成されており、この地域一帯には多様な観光資源が豊富に存在しています。そして、観光客はこの地域すべてを「ニセコ」と呼び、休日を楽しんでいます。

これまでもニセコ町では、後志観光連盟やニセコ山系観光連絡協議会などに参画し、広域的な観光振興に取り組んできました。しかし、その活動はパンフレットの発行などにとどまり、観光客に地域の魅力を届ける取り組みとしては不十分でした。

そこで、改めて各市町村の連携を強化し、相互に補完し合える関係づくりに取り組みます。そして、共に特色を生かしたリゾート地づくりに取り組む中で、広域的な地域の総合力を高め、観光客誘致の強化を図ります。

●主要施策

1. 広域的な視点を持ったリゾート地づくり

ニセコエリアは美しい山々を中心に、西側には日本海、南側には昆布岳を挟んで太平洋が広がる全国的にも珍しい地形を有しています。また、東側にある羊蹄山は国立公園に指定されており手付かずの自然が残っているなど、ニセコエリアとその周辺地域には、優れた観光資源が多数点在しています。

そこで、これらの地域的特性を生かし、それぞれの市町村での地域振興を実現するため、互いに有している観光資源を相互活用し、観光客や各市町村が互いにメリットを享受できるよう広域的な観光振興に取り組めます。

《実施事業》

①戦略的な連携関係の構築

- ・関係団体などとの連携強化

これまでに取り組まれてきた広域的な活動を継続し、広域団体や周辺市町村との連携を強化します。また、ニセコエリア以外の地域や団体などとの新たな連携を模索し、広域的な地域の魅力向上に寄与しながらニセコの観光振興を図ります。

②広域でのプロモーション活動の強化

- ・広域エリアの魅力発信の強化

全国的にニセコの地名は知られていますが、どのような所であるかはあまり知られていません。そこで、ニセコエリアに限らず後志エリアも考慮した広域エリアの魅力を広く伝えるため、後志観光連盟やニセコ山系観光連絡協

議会など既存の団体と連携するほか、テーマを明確にした観光情報発信を関係市町村と連携して取り組みます。



③広域での情報連携の強化

- ・ニセコ山系での観光情報の連携強化

これまでも取り組んできているニセコ山系観光連絡協議会での観光情報連携を強化するため、新たに整備を検討する地域情報システムに広域情報機能を付加することを検討し、広域的な情報発信の充実を図ります。

④「(仮称) ニセコ観光局」設立についての検討

- ・官民一体の組織「(仮称) ニセコ観光局」設立についての検討

ニセコの宝である自然資源や景観を保全し次代に継承することや、地域の価値をニセコブランドとして磨き上げて国内外からの誘致受入を進めることは、広域で取り組むことでより実効性を高めることができることから、こうした機能を担う官民一体の組織「(仮称) ニセコ観光局」の検討を進めます。

VI. 受入れ環境の整備 ～ 誰もが来訪・滞在しやすい環境づくり ～

●戦略の考え方

ニセコには国内外から多くの観光客が訪れていますが、外国語による観光案内機能の不備や、公共交通機関を利用したアクセスが不便といったように受入れ環境に課題があります。今後は、外国人観光客や高齢化した国内旅行者の増加が見込まれることから、誰もが安心してゆったりと滞在を楽しめるリゾート地に必要な環境を整える必要があります。また、将来的には北海道新幹線や高速道路の開通など交通手段に大きな変化が生じることが予想されています。そこで、現在起きている課題の解決に取り組むとともに、今後の動向を見据えながら観光客と地域にとって望ましい環境整備の検討を進めます。

●主要施策

1. 誰もが快適に利用できるリゾート地づくり

リゾート地とは、誰もが楽しめ何度も繰り返し訪れる場所のことです。現在、ニセコにはさまざまな場所や国から年間150万人もの観光客が訪れています。特に最近では、アジア、オセアニアなどの国から注目されており、外国人観光客が急増しています。また、国内旅行者の年齢層は、人口の高齢化に伴い高まることが予想されています。こうしたことから、多くの人に認められるリゾート地を実現するため、外国人や高齢者、あるいは障害を持った人などの利用にも配慮した施設環境の整備に取り組めます。

《実施事業》

①案内表示などの充実

・案内表示のピクトグラム化

さまざまな国からの観光客が増加しており、言語による案内表示には限界があるため、施設などの案内表示にはピクトグラムによる表記を採用し、誰でも分かるような案内表示を検討します。

(ピクトグラム…一般に「絵文字」「絵単語」などと呼ばれ、何らかの情報や注意を示すために表示される視覚記号(サイン)の一つ。主に鉄道駅や空港などの公共空間で使用され、文字による文章で表現する代わりに、視覚的な図で表現することで、言語に制約されずに内容の伝達を直感的に行う目的で使用されています)



②外国語対応の支援

・言語サポートディスクの設置

外国人観光客が増加することに伴ない、町内の商店や飲食店などを利用す

る外国人が増えると予想されます。そのため、店先でのコミュニケーションに苦慮することが想定されるため、小規模事業所などを対象に外国語によるコミュニケーションをサポートする仕組みを検討します。

2. 公共交通の利便性の向上

外国人観光客の増加や旅行者の高年齢化などにより、公共交通の重要性はこれまで以上に高まることが予想されます。現在、公共交通を利用して主要都市（札幌市や千歳市など）からニセコへ移動する場合、鉄道かバスを利用することになりますが、小樽からニセコまでの路線は運行本数が少なく、移動時間がかかるなど利便性は高くありません。また、ニセコ町内での公共交通は、主に町が運営する町内循環バスになりますが、運行本数が少なく利便性の確保は大きな課題となっています。

利便性を高めるためには運行本数を増やすことが考えられますが、経済性を無視した拡充は現実的ではありません。そこで、今ある資源を最大限に生かすことを第一に考え、地域や企業などがさまざまな連携に取り組む中で、公共交通の有効利用を図ります。

《実施事業》

①公共交通機関に関する情報提供の強化

- ・わかりやすい時刻表の作成

ニセコへの公共交通機関によるアクセスは、鉄道のほかにバスがありますが、これらの時刻表は別々に作成されているため、地域のことが分からない観光客には利用しづらいものになっています。

そこで、これらの公共交通機関を一度に見ることができる時刻表を作成し、初めてニセコを訪れる人でも分かる公共交通情報を提供します。



②地域内交通の充実

- ・さまざまな送迎手段の検討

現在、ニセコ駅から各宿泊施設などへの交通手段は、主にそれぞれの施設が用意した車を利用しています。このことは、環境的にも経済的にも良い状態とはいえません。そこで、観光客の利便性を確保しながら送迎の効率を高めるため、観光事業者などが連携して取り組む送迎車の共同運行などを支援します。

③運行ダイヤの適正化

- ・交通事業者などへの要請

主要都市や空港、周辺の主要観光地からニセコへの交通アクセスの利便性を向上させるため、周辺自治体や関係団体などと連携して交通事業各社に対し、乗り継ぎを考慮した運行ダイヤの設定や運行車両の増設などを要請します。



④移動時間を楽しめるメニューの開発

- ・ニセコまでの道中を楽しむ仕掛けづくり

個人や小グループ旅行が増えている現状を考慮し、主要都市や空港からニセコまでの移動時間を楽しんでもらえるよう、道中にある観光ポイントや店の情報などを交通手段（鉄道、車）ごとに取りまとめ、「旅」の充実を図ります。また、沿線の市町村や関係団体、交通事業者などと共同で、ニセコまでの移動区間を楽しむことできる仕掛けづくりも検討します。

3. 安全に配慮した観光地づくり

誰もがゆったりと楽しむことができるリゾート地では、安全への配慮は必要不可欠なものです。ニセコの重要な資源である自然環境は、多くの人を魅了しますが、同時に危険も持ち合わせています。そのため、誰もがニセコの自然を安全に楽しむことができるよう各種の安全対策に取り組み、事業所や関係機関などと連携して危険の排除に努めます。

《実施事業》

①レジャーの安全性を高める取り組みの実施

- ・山などにおける安全の取り組み

ニセコにおける危険箇所などの情報を随時提供し、観光客などに対する安全啓発を強化します。また、「ニセコルール」（スキー場エリア外を滑走する人々と、全てのスキー場利用者の安全のために作られた地域の公式ルール）の運用を支援するほか、必要な安全対策に取り組みます。

②安全・安心な歩行空間の確保

- ・歩道整備の推進

観光客の利用頻度の高い町道には、必要に応じて歩道を設置します。また、車の往来が多い道道などについても、歩道設置を関係機関に働きかけるほか、冬期間の歩道確保に努めます。

4. 事業者活動の活性化

現在、観光事業者を取り巻く環境は大きな変革期を迎えており、新規事業者の参入や世代交代などがめまぐるしく進んでいます。そのため、これまで培われた観光事業者間の連携や協働意識に変化が生じており、既存のつながりにとらわれない新たな事業者間連携を確保することが求められています。

そこで、これまでのつながりを尊重しながらも、新しい連携が生まれるよう事業者の活動を支援します。また、質の高いホスピタリティを実現するためには、女性の目線が重要であり、その活動を観光振興に生かしていく仕組みづくりや組織の育成に取り組みます。

《実施事業》

①観光協会による地域振興事業の強化

- ・事業者間ネットワークの強化

観光事業者の連携を育成強化するため、観光事業者やニセコリゾート観光協会などと協力して意見交換の場や必要な体制づくりに取り組みます。また、観光協会が取り組む地域振興事業を支援し、観光事業者などと連携した活動を強化します。

②観光振興に資する組織の育成

- ・女性が主体の組織づくり

ニセコにおけるホスピタリティを高めていくためには、女性の目線による事業推進が必要です。そこで、観光事業に関わる女性を中心に新たな組織を育成し、女性の目線による提言を行うとともに、独自の活動を展開し、きめの細かい観光サービスの実現を図ります。

③新規事業参入の促進

- ・情報提供による事業参入者の支援

新たに事業参入するためには、地域に関するさまざまな情報が必要になります。しかし、個人や小規模事業者では、これらの情報を収集することは困難であるため、観光協会や商工会など関係団体が協力して、事業者向けの情報を積極的に発信し、新たな事業者の参入を支援します。

5. きめ細かな施設整備の検討

ニセコ町内における各地域の魅力を観光客に提供することで、観光客の満足度を高めるとともに、地域の産業を活性化することができることから、各地域の特性に応じた施設整備を検討します。

《実施事業》

①地域特性を活用した施設整備の検討

- ・地域別の観光施設整備計画の策定

自然環境と産業との調和を目指す川北地区、相互扶助のまちづくりの実践を勧める有島地区など、各地区の特徴に応じた、地域別の観光施設整備計画を策定し、各地域の魅力向上を図ります。

- ・野外で地場産品を楽しめる場所の創出

ニセコの野菜等を野外で気軽に楽しむことができるよう、バーベキューやジンギスカンができる広場を創出することで、観光客の満足度を高めるとともに地場産品の消費拡大を図ります。

6. 「道の駅」整備についての検討

「道の駅」ニセコビュープラザは、平成9年にオープンして以来、ニセコ町の情報発信基地、地域産業活性化の拠点として大きな機能を果たしており、現在は年間70万人を超える多くの人に利用されている施設です。

ニセコビュープラザが多くの人に利用されることに伴い、駐車場や滞在場所の不足が顕在化しているほか、施設老朽化への対応も必要とされていることから、観光客の満足度向上及び地域経済の発展に向け、今後の「道の駅」整備のあり方について検討を進め、必要となる取組を実施します。

《実施事業》

①「道の駅」整備についての方針の整理

- ・ニセコビュープラザ再整備の検討

ニセコビュープラザについては、駐車場や滞在場所の不足、施設老朽化への対応、省エネルギー化、防災拠点機能の強化などの課題があることから、施設の抜本的な見直しを含めた再整備について検討します。

- ・新たな「道の駅」整備の検討

地域の魅力発信強化を図るとともに、観光客の回遊を促進するため、新たな道の駅を整備することについて、設置の必要性を含め検討します。

Ⅶ. スポーツ観光の振興 ～ スポーツによる感動・交流の創出 ～

●戦略の考え方

ニセコの自然環境を活用したカヌー、ラフティング、ハイキングなどのアウトドアレジャー、また、山の魅力を生かしたスキー、スノーボード、登山などのアウトドアスポーツは、町の観光振興において極めて重要な位置を占めています。

また、羊蹄山やニセコ連山の山容、農業の歩みとともに培われた農地は、サイクリングやランニング・ウォーキングに最適な景観を提供しています。

こうしたニセコの強みを更に活かし、快適にスポーツを楽しめるための環境整備など、スポーツをテーマとした様々な取組を進めることで、観光の魅力向上とともに、町民生活の充実を図ります。

●主要施策

1. スポーツを目的とした旅行の促進

冷涼な気候、美しい景観、優れた雪質、疲れを癒す数多くの温泉など、スポーツを行う目的地としてのニセコの優位性を効果的に発信するとともに、各種スポーツイベントの開催地となることで、スポーツによる誘客を促進します。

《実施事業》

①スポーツをテーマとした情報発信

- ・サイクリングやランニング等に適したコースの紹介

景観が特に優れているコースの紹介や、走行したい距離に応じた推奨コースなど、ニセコでスポーツを楽しむに当たって有益となる情報をインターネットやパンフレット等を通じて発信します。

②スポーツイベントの促進

- ・スポーツ大会などの開催支援

スポーツ大会などのイベントは、参加者や観客の滞在による宿泊増が見込めるほか、スポーツを行う目的地としての認知度向上につながることから、大会などが円滑に行われるよう、必要とする情報の提供、沿道警備に係る人員手配などの支援を行います。

2. スポーツを快適に楽しめる環境の整備

スポーツ愛好者が快適にスポーツを楽しめるよう、需要を踏まえた環境整備を行うことで、スポーツ観光地としての優位性及び観光客満足度の向上を図ります。

《実施事業》

①スポーツ愛好者の需要を踏まえた環境整備

- ・スポーツ愛好者からの情報収集

ニセコでスポーツを楽しむに当たり地域として改善を要する点や魅力向上策について、スポーツ愛好者の意見を収集し、環境整備の検討を進めます。

- ・家族みんながスポーツを楽しめるための環境整備

子どもと一緒に汗を流せる空間の創出、子どもを一時預けられる託児サービスの提供など、訪れる人が快適にスポーツを楽しむために必要となる環境の整備を検討します。

- ・駐輪スタンドの整備

近年愛好者が増加しているロードバイク（舗装路での高速走行に特化した自転車）を快適に楽しんでもいただくためには、休憩地においてロードバイクに適した駐輪スタンドが必要となることから、愛好者の意見を踏まえながら整備を進めます。

②スポーツ施設整備の検討

- ・スポーツ合宿で利用できる施設整備の検討

スポーツ合宿へのニーズに対応するため、体育館やグラウンドなどスポーツ施設の整備について検討します。

3. プロスポーツ団体との連携

スポーツ観光の振興について理解のあるプロスポーツ団体と連携し、スポーツに関するイベントの開催やスポーツ観光地としての魅力発信などに取り組みます。

《実施事業》

①北海道日本ハムファイターズとの連携

- ・応援大使と連携した取組の実施

道内初のプロ野球球団である北海道日本ハムファイターズでは、平成25年1月から12月までの間、同球団選手2名をニセコ町の応援大使とすることとしたことから、球団と調整の上、選手にも応援いただきながら、スポーツ観光の振興を図ります。

Ⅷ. シニア層増加、総人口減少へのアプローチ ～ 少子高齢社会に向けた対応 ～

●戦略の考え方

我が国における65歳以上の人口は年々増加し、平成24年度には3,000万人を超えるとともに、総人口に占める割合は24%となり、人口、割合共に過去最高となっています。

一方、我が国の総人口は少子化の進展により平成22年をピークとして年々減少を続け、平成22年から平成30年までの間に300万人、平成40年までの間に1,000万人の減少を迎えることが推計されているところです。

こうしたことから、持続可能な地域経済を確保するため、シニア層の需要を踏まえながら、消費者数の減少に対応した取組を進めます。

●主要施策

1. ヘルスツーリズムの推進

近年、観光客のニーズの多様化に応える観光形態の一つとして、ヘルスツーリズム（自然豊かな地域を訪れ、そこにある自然、温泉や身体に優しい料理を味わい、心身ともに癒され、健康を回復・増進・保持する新しい観光形態）が注目されています。

ヘルスツーリズムは、観光客の長期滞在にもつながる旅行形態であり、観光客の満足度向上及び観光消費額の増につながることから、ニセコの地域資源を生かした取組を進めます。

《実施事業》

①温泉を活用したヘルスツーリズムの推進

- ・温泉利用や健康管理の指導における医師との連携

温泉地において、医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導が可能な医師又はこうした医師との連携のもと入浴方法の指導ができる人材を配置、育成することにより、魅力ある温泉地づくりを進めます。

2. 観光客1人当たりの消費額を増やす取組

人口減少社会を迎え、今後も消費者数が減少していく中、持続可能な地域経済を確保するためには観光客1人当たりの消費額を高めることがますます重要となっていることから、ニセコらしい高付加価値を持つ観光コンテンツの整備に取り組みます。

《実施事業》

①ニセコらしい高付加価値を持つ観光コンテンツの開発・発信

・記念旅行に相応しい観光コンテンツの開発・発信

新婚旅行、金婚式、銀婚式、還暦祝などでの記念旅行に当たり、旅行者に良い思い出を提供できるよう、花や雪などを使用した巨大オブジェやコミュニティFMを活用した各種演出など、高価値商品の開発を促すとともに、こうした情報を取りまとめて発信し、記念旅行の取り込みを図ります。

3. 子どもや孫にも役立つ旅行の提案

ニセコへの旅行が心身のリフレッシュに留まらず、子どもや孫の成長にとっても有益な旅行となることを提案し、旅行需要の喚起を図ります。

《実施事業》

①インターナショナルスクールとの連携

・外国語プログラムによる誘客

学校の長期休み期間にニセコを訪れる子どもに対し、英語によるコミュニケーションの楽しさを伝えるため、インターナショナルスクールと連携し、1～2週間程度の「留学体験」プログラムの実施について検討します。

Ⅸ. ニセコに滞在する魅力の発信 ～ 長期滞在から移住へ ～

●戦略の考え方

ニセコは、景観・環境など、その魅力にひかれて世界中から多くの人が集まり、暮らしている地域であり、この多様性は他の地域ではなかなか味わえない大切な特徴です。

ニセコでの滞在メニューを充実させるとともに、ここでの生活文化そのものを観光資源として、日常の暮らしを紹介することで、観光客にニセコの魅力を多面的に伝え、長期滞在客などの誘客を図ります。

●主要施策

1. 滞在を促進する観光メニューづくり

宿泊数を増加させるためには、ニセコに滞在する目的を増やし、滞在時間を増加させることが必要です。そこで、身近にふれることができる豊かな自然や美しい景観、温泉、文化、さまざまなアクティビティなど既存の観光資源を活用しながら、新たな観光資源づくりにも取り組み、さまざまな顧客層の需要に応じた滞在型観光を促進します。

《実施事業》

①既存資源の活用

- ・近代遺産の観光資源化事業

町内には、産業の変遷や生活の変化などにより忘れ去られようとしている遺構や遺産がたくさんあります。これらの関係品の保存展示を検討し、観光資源に生かしながら地域の歴史を後世に伝えていきます。



また、町内ではニセコ駅前の倉庫群のような広い空間は貴重な存在であり、天候に左右されない観光施設として活用できるかを含め、今後の活用方法を検討します。

②地域をゆったりと楽しめるアクティビティの造成

- ・フットパスやサイクリングコースの設定

ビューポイントと連携して、歩いたり、自転車に乗ったりと、時間をかけて風景やまちの雰囲気を楽しむことができるフットパスや散策路、サイクリングコースの設定を町民や事業者などと連携して行います。また、必要に応じ案内看板などの整備を検討します。



- ・各種アクティビティの横断的活用

各事業者が取り組むラフティングなどのアウトドア体験、クラフトなどのインドア体験などを横断的に組み合わせるとともに、他のサービスや地域の観光資源とも組み合わせることで、付加価値を高めた観光メニューの創出に取り組めます。

③長期滞在化の支援

- ・「ゆとりパス（仮）」の検討

地域内での連泊、アウトドアやインドアの体験観光など、さまざまな事業所で使うことができる共通券「ゆとりパス（仮）」の発行を検討します。ゆとりパスは（仮）は、支払いにかかる観光客の手間を軽減するとともに、プリペイド方式などを検討することで観光消費額の増加を図り、観光客の長期滞在化を促進します。

2. ニセコ町での暮らしの紹介

有数の豪雪地域でもあり、自然の猛威にさらされることもしばしばある中で生き生きと暮らす人達を紹介し、住民目線から見たニセコの魅力を伝えます。

また、洞爺湖、支笏湖、札幌市、千歳市、小樽市などへ1～2時間程度で行ける利便性を紹介し、長期滞在に適した地域であることを伝えます。

《実施事業》

①移住者の暮らしの紹介

- ・移住者コメント集の作成

ニセコに移住してきた人達に、何に惹かれて移住し、どのように日常を満喫しているかを語っていただくことで、観光客の日常と違った日常を明らかにし、町外の方に滞在する魅力、移住する魅力を伝えます。

②長期滞在者の暮らしの紹介

- ・長期滞在促進パンフレットの作成

ニセコでの長期滞在を楽しむ人達に魅力を語っていただくとともに、長期滞在客受入施設、近隣観光地へのアクセス等を紹介するパンフレットを作成し、長期滞在者の誘客を図ります。

③日常情報の発信

- ・インターネットやコミュニティFMによる日常情報の発信

地域の行事や暮らしについての情報を、インターネット（Web サイト、SNS）やコミュニティFMを通じて広く発信することにより、町外の方に町

の活力を知っていただきます。

(SNS…ソーシャルネットワーキングサービス (Social Networking Service) の略で、限られたユーザーだけが参加できる Web サイトの会員制サービスのこと。友人同士が集まったり、同じ趣味を持つユーザーが集まったり、近隣地域のユーザーが集まったりと、ある程度閉ざされた世界にすることで、密接なユーザー間のコミュニケーションを可能としている。)

3. 環境にやさしい暮らしの紹介

ニセコ町での暮らしは、羊蹄山、ニセコアンヌプリ、尻別川といった豊かな自然環境の恵みを基盤として、自然環境と共生しながら営まれているものです。

こうした暮らしの中で行われている取組を紹介し、「環境創造都市ニセコ」のイメージ浸透を図ります。

《実施事業》

①自然環境を軸としたエネルギー循環の紹介

・自然エネルギー活用事例の紹介

生ゴミなどの有機物資源を有効活用した循環型農業、ニセコ高校の地中熱ヒートポンプ利用による農業ハウスなどの事例をインターネット等で紹介します。